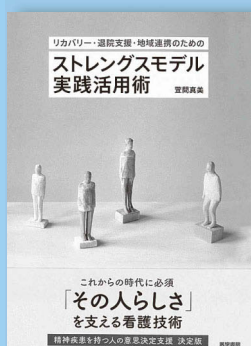


今月の 新刊紹介



リカバリー・退院支援・地域連携のための ストレngthモデル実践活用術

編：仲間真美
発行：医学書院
定価：2200 円＋税

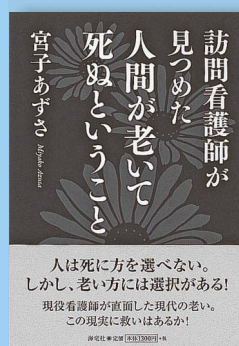
「患者自身がなりたい姿＝その人らしさ」を支えるストレngthモデル。精神疾患を持つ患者が疾患をどう捉え、今後どのように生きていきたいかを引き出す「型」として、ストレngth・マッピングシートを紹介している。事例を追いつながら、患者の意思を支援する技術を身につけられる実践書。



がん疼痛緩和の薬がわかる本 第2版

著：余宮きのみ
発行：医学書院
定価：2200 円＋税

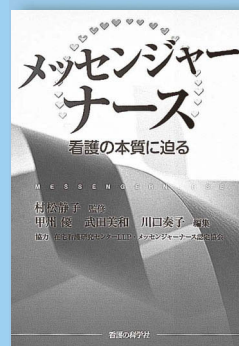
つい難しいと思ってしまう薬剤のことを、「できるだけ易しく理解できるように」というコンセプトで解説した書籍の第2版。ここ数年で新たに使用できるようになった薬剤の解説を新たに収録し、疼痛の基本やさまざまな予備知識などの内容をさらに洗練。すぐに臨床現場で活用できる頼れる1冊。



訪問看護師が見つめた 人間が老いて死ぬということ

著：宮子あずさ
発行：海竜社
定価：1300 円＋税

内科病棟から精神科病棟へ異動し、そして精神科の訪問看護師へ。さまざまな患者との触れ合いを1つひとつ丁寧に回顧し、著者の体験の意味をあぶり出すことで、著者と医療界、そして社会の「生きること」の捉え方の変化を描き出す。誰にでもやってくる老いをどう迎えるかを考えさせられる。



メッセンジャーナース 看護の本質に迫る

監修：村松静子
編集：甲州優／武田美和／川口泰子
発行：看護の科学社
定価：本体 1500 円＋税

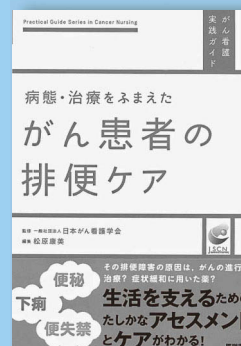
医療の受け手のメッセージを伝えるメッセンジャーとして活動する看護師の思いや実績を綴った1冊。患者・家族に対してケアを「提供」する前に、その主張や思いを的確に「聴取」し、医療者と受け手の架け橋となるメッセンジャーナースの活動の中に、看護の本質が見えてくる。



《シリーズケアをひらく》 介護するからだ

著：細馬宏通
発行：医学書院
定価：2000 円＋税

人間行動学者である著者が、実際に介護の現場を体験しながら記録した、フィールドノートやビデオ録画をエピソードとして描き出し分類した。それらを「からだ」の使い方という視点で読み取っていくと、介護する者とされる者の絶妙なズレを伴ったやりとりには、多くの「驚き」と「発見」があった。



《がん看護実践ガイド》 病態・治療をふまえた がん患者の排便ケア

監修：日本がん看護学会
編集：松原康美
発行：医学書院
定価：3000 円＋税

がん患者における排便障害は、経過が緩やかであったり、患者からの申し出が遅れたり、対応が後手に回ることが多い。しかし、排便障害は QOL に密接するだけでなく、治療の継続に影響を及ぼすこともある。排便障害の考えられる要因ごとにメカニズム、アセスメントや対処法を解説した実践ガイド。